



STRUM

シュトルム

第53号

2021年10月10日発行

長く様子見をしていた、後援会主催のコンサート *Wiener Windo* のご案内がようやくできる日がやって来ました。別紙の通り 11月27日にユニオン教会で開催いたします。夏からの緊急事態宣言も解除になり油断はできないながらも、少し動きが取れるようになりそうですね。心地よい季候のうちにぜひお出掛け下さい。9月には「ピアソラナイト」も開催され、マリンFMも好調です。伊都さんの地道な努力が実る秋ですね。



近況報告

9月26日秋の気配が漂い始めた、山手の丘にて、日が暮れる頃、今年生誕100年を迎えたピアソラのコンサートができたこと、緊急事態宣言のため30名限定となりましたが、久しぶりのコンサートでの生演奏、ヴァイオリンの音が、木々の葉をゆらす風のように、ふわりと漂い、会場を駆け抜けていく、その色が見えるようで、楽器から音が出る時の緊張感、聴いてくださる方の息づかいを感じる高揚感、自分がヴァイオリン演奏が大好きなことを再確認しました。

今回のピアニストは昨年のみなとみらいリサイタル、そしてこの3月のライブコンサートでも一緒に演奏した桐朋高校の同級生、森田君で、背の高い彼が絶対的な演奏技術を持って、ゆるぎない姿勢でピアノに向かっていくことは、安心感を感じます。

また最後はカホンという（小さな箱という意味）南米楽器に、リベルタンゴのリズムを刻んでもらい、リズムに乗る楽しさも再発見、これからラジオでも一緒に演奏したいと思っています。

11月27日、再び秋の深まる山手の丘にて、今度は、ヴィヴァルディの“秋”や、シューマンのヴァイオリンソナタなど、王道クラシックのコンサートをやはり桐朋高校の同級生のピアニスト近藤紗織さんで行いますので足を運んで頂ければ嬉しいです。【伊都】

Piazzolla Night

アルゼンチンタンゴの巨匠、アストル・ピアソラの生誕100周年を記念し9月26日、横浜山手イギリス館で伊都さんの久々のコンサートが開催されました。感染対策のため30席という制限はありましたが、後援会にも思い出深いイギリス館には満席のお客様、「伊都さんのコンサートは久しぶりなので楽しみにして来ました！」という嬉しい声も聞かれました。

タンゴのバンドネオン奏者でありながらクラシックを学び、作曲家として新しいタンゴの形態を生み出したピアソラ、情熱的なタンゴを原点としたピアソラの曲を伊都さんが演奏すれば…水を得た魚のようにヴァイオリンを通して彼女の情熱があふれ出しました。

マリンFMの放送でもクロアチアのエピソードとともに披露された「オブリビオン」で始まり、「アディオス・ノニーノ」や「ブエノスアイレスの冬」などピアソラの名曲が続きます。森田義史さんの華麗な演奏に彩られ、ラスト2曲は崎村純弥さんのカホンも加わりましたが、特に最後の曲「リベルタンゴ」では、三人の演奏、三つの楽器が化学反応を起こしこれまでに聴いたことのない、エキサイティングな「リベルタンゴ」になりました。



Cajon
カホン



加納伊都の Close To The Violin

番組続行が決定しました！

毎週火曜日のお昼 12:30~13:00 に放送中



ようやく、ラジオで話す、演奏することに慣れてきましたが、まだ話のオチどころが自分でもつかめず、うまく収束させられず、語尾が濁ってしまうこともしばしば、おかげさまで好評で、番組続行となりましたので、しっかりオチのある話をしていきたいと思っています。

そして、たくさんの、エピソードが興味深い、本にできるのではとコメントを頂いていて、私にとって、音楽、曲を弾くことと思い出はイメージでリンクしているなど感じています。自分でもこんなことあったなと思出すのが喜びもあり、苦い痛みもあり、自分の軌跡をなぞっているようで、もしかして本にできたらよいなと思っています。【伊都】

▶ PC・スマホでmarine FMを聴く



カテゴリから「全国のラジオ局」→「マリンエフエム」を選択
スマホ・タブレットでは無料アプリをダウンロードします。

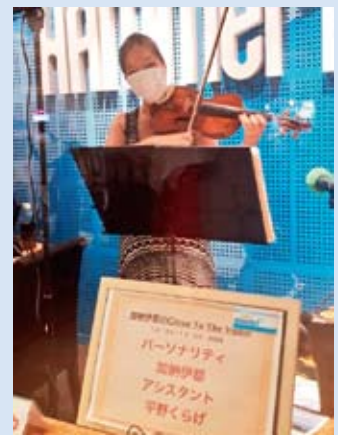
上記「Listen Radio」の無料アプリをダウンロードしてホーム画面の下部にある「選局」ボタンをタップし、「マリンFM」を選んで下さい。タイムテーブルはマリンFM ホームページをご覧ください。

<http://www.marine-fm.com/>



7月20日にはハンマーヘッド
サテライトスタジオでの公開
生放送が行われました。

道行く人もしばし足を止め、
伊都さんの生演奏に耳を傾け
ていました。



Wiener Wind ~ 晩秋の午後 ウィーンの風に吹かれて ~

長らくお待たせしましたが、別紙のご案内のように、後援会主催の12回目のコンサートが開催できることになりました。

伊都さんが決めた今年のサブタイトル

「Sparkle tone in season of mellow fruitfulness

実りの秋に煌めく音色を！」は、伊都さんが好きなイギリスの詩人、ジョン・キーツの「秋に寄せて」という詩に由来しています。詩の最初の1節「霧が漂う豊かな実りの季節」にキラキラと輝くヴァイオリンの音色が舞うようなイメージ、でしょうか。深まる秋を感じる山手の丘にぜひ、お出掛けください。

今年は、みなとみらいホールが大規模改修工事のため、恒例の12月リサイタルはありません。後援会主催のこのコンサートも、教会のコロナ感染防止対策に従い、1回の定員は40人で、異例の2回公演となりました。演奏の時間は最長でも1時間を予定しています。終演後の伊都さんのお客様お見送りもご遠慮させていただきます。また、以前は、休憩時間に飲み物やお菓子をご用意しましたが、教会ロビーが密になることを避けるため、お帰りにお持ち帰り頂きます。

まだまだ様々な制約はありますが、季節を楽しみ、音楽を楽しむ心は持ち続けたいものです。



編集後記 生で音を聴くということは耳だけでなく、体全体で音を感じ受け止めるということだと思います。日頃生演奏では、伊都さんのヴァイオリンやピアノの音の波を直接受け止めている感覚がありますが、今回のピアノコンサートで、崎村さんのカホンが加わると、その音の波を強烈にズドン！と体全体に感じました。そしてそのリズムに思わず体を動かしたくなるような衝動に駆られます。人間のDNAに刻まれた「何か」があるんでしょうね。伊都さんの表現にまた一つ引き出しが増えたようなコンサートでした。/ 2年振りのWiener Wind、今年はリサイタルが無いので、何とかやりたいと思っていましたが、コロナも少しだけ落ち着き昨年と同じように秋にチャンスがやってきました。気を緩めず安心、安全に行いたいと思っていますので皆さん、土曜日の午後、お散歩がてらいらして下さい。お待ちしております！ <ゆ>

発行：加納伊都後援会 TRAU BEN
〒231-0835 横浜市中区根岸加曾台 15
TEL：045-622-6780
FAX：045-621-6423
Email：trauben@itokanoh.com
Homepage：itokanoh.com